

瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報(5~6月)

-平成15年4月24日~4月25日において開催された第34回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議において、別表の水産関係機関が検討した結果を独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果-

今後の見通し(2003年5月~6月)

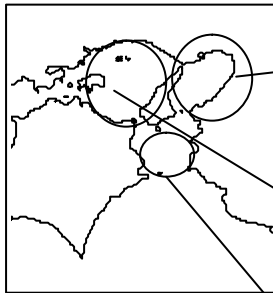
シラスは低調であった2002年を上回る海域が多い。

紀伊水道では好漁であった2000年には及ばないが、低調であった2002年を上回る。

大阪湾では低調であった2002年をやや上回る。

播磨灘東部(兵庫県側)では好漁であった2002年を下回る。

播磨灘西部(香川県、岡山県側)では低調であった2002年を上回る。



大阪湾ではシラス、小中羽とも低調であった2002年と同程度かやや上回る。

シラス

播磨灘東部(兵庫県側)では好漁であった2002年を下回る。

播磨灘西部(香川県、岡山県側)では低調であった2002年を上回る。

シラス

紀伊水道では好漁であった2000年には及ばないが、低調であった2002年を上回る。

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)及び瀬戸内海区水産研究所のホームページ(<http://www.nnf.affrc.go.jp/>)に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。
水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当：竹葉、狭間
住所：〒100-8907 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1
電話：03-3502-8111(内線7376) ファックス：03-3592-0759
電子メール：toru_hazama@nm.maff.go.jp
水産総合研究センター瀬戸内海区研究所企画連絡室
住所：〒739-0452 広島県佐伯郡大野町丸石2-17-5
電話：0829-55-3409 ファックス：0829-54-1216
電子メール：kiren@nnf.affrc.go.jp

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
大阪府立水産試験場
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター
岡山県水産試験場
香川県水産試験場
徳島県立農林水産総合技術センター 水産研究所
中央水産研究所 黒潮調査研究部
瀬戸内海区水産研究所 生産環境部
水産庁 増殖推進部 漁場資源課

瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し(2003年5月~6月)

(1) シラス (本年春季発生群)

紀伊水道では好漁であった2000年には及ばないが、低調であった2002年を上回る。

大阪湾では低調であった2002年をやや上回る。

播磨灘東部(兵庫県側)では好漁であった2002年を下回る。

播磨灘西部(香川県、岡山県側)では低調であった2002年を上回る。

(2) 小・中羽 (本年春季発生群)

大阪湾では2002年と同程度か上回る。

2. 漁況の経過(2002年4月~2003年4月)および見通しについての説明

(1) シラス

紀伊水道東部(和歌山県側)では2002年4~5月は平年を大きく下回る漁であった。8月下旬~10月に紀伊水道北部から中央部で好漁となり11月以降も平年を上回った。2003年の漁は4月7日に始まった。好漁で推移しており、漁場は紀伊水道全域に広く形成されている。

紀伊水道西部(徳島県側)では2002年4~6月に平年と比較して極端な不漁となった。7月になって漁は上向いたものの、8月も含めて平年値には及ばず低調であった。一方、9~10月は平年値を大きく上回った。期間を通じてみると、例年の多獲期である4~6月の低調な漁を反映して低い水準にとどまった。2003年の漁は、3月31日から始まった。4月上旬漁獲は小型個体が多かったため低調であったが、4月中旬以降は比較的好調であった。漁期開始以降(4月中旬まで)の漁は過去10年平均値を上回っている。

紀伊水道北部(兵庫県側)では2002年7月にやや水揚げがあったものの8月までは低調に推移した。しかし9~10月には好漁となり期間を通じてみると過去10年間では最高となった。

大阪湾(大阪府側)では2002年4月22日に漁が始まった。しかし漁獲量が少なく、小型個体が多かったため出漁は3日間のみであった。5~6月も低調であり7月以降ほとんど漁獲されなくなった。8月も中旬までほとんど漁はなかったが、8月下旬に漁は再開し、9~10月は近年にない好漁で、11月下旬まで漁が続いた。

大阪湾(兵庫県側)では2002年5月から漁が始まったが、8月までは低調な漁模様で推移した。しかし9月には好漁となり徐々に漁獲量は減少したが、12月前半まで漁は続いた。

播磨灘東部(兵庫県側)では2002年5月末日から漁が始まったが、灘北東部を中心に近年にない好漁となった。7~8月は低調であったが、9月には漁獲量が増加した。その後、徐々に漁獲量は減少し11月半ばで終漁した。年間漁獲量は、過去10年間で最高を記録した。

播磨灘南西部(香川県側)では2002年6月1日から漁が始まったが、漁期当初から極めて低水準な漁で8月まで推移した。しかし9月に入って漁況は好転し、10月まで好漁が続いた。

播磨灘北西部(岡山県側)では2002年5月16日から漁が始まった。春漁(5~6月)の漁獲水準(シラスおよび小中羽込み)は低かったが7~8月の漁は2001年にはおよばないものの1994年以降では2番目に高い水準であった。秋漁(9~10月)は1994年以降最も高い水準であった。秋漁の

豊漁により期間を通じては 1994 年以降最も高い水準であった。

(2)カタクチイワシ

紀伊水道西部(徳島県側)では小型定置網により漁獲された 4~7 月の漁獲は平年値(1992~2001 年の平均)と比較して低調であった。また、8~3 月においては、まったく魚がなかった。

大阪湾では巾着網により 6 月から漁獲され始めた。7~8 月には多獲されたが 8 月下旬以降はほとんど出漁しなかったため漁獲は急減した。巾着網標本船における 7~12 月までの漁獲量は前年、平年とも上回った。

播磨灘南西部(香川県側)では前年を上回るものの、平年を下回った。前年漁獲がなかった 10~11 月に全期間の 48%の漁獲があった。

(3)外海域での産卵量等

九州~関東までのカタクチイワシ卵は、2003 年 2 月は前年同様ほとんど卵が出現せず、産卵が本格化していない。

和歌山県水産試験場が行った 2003 年 3 月の紀伊水道および紀伊水道外域での定線調査では、2002 年 3 月より多くの仔魚が採集された。

徳島県立水産研究所が行った定線調査では、2003 年 3 月の紀伊水道外域におけるカタクチイワシの卵密度は平年値(1992~2001 年平均値)を大きく上回り豊漁であった 1999、2000 年とほぼ同じ水準であった。同期同海域における稚仔密度は、豊漁であった 1999、2000 年と比較するとはるかに小さいものの、ほぼ平年並の水準であった。

(4)今後の見通しの説明

シラス(本年春季発生群)

黒潮小蛇行の移動により潮岬で黒潮は一時的に離岸するとみられ、そのため来遊環境(紀伊水道への暖水波及)が安定せず、継続的な漁は期待できない。しかし 3 月の卵稚仔密度が高く、宮崎県におけるカタクチイワシ漁獲の傾向も良いので紀伊水道への来遊がある程度期待できる。

大阪湾、播磨灘で漁獲される春季シラス漁は紀伊水道および外海域でのシラス現存量と来遊環境に依存する。今後、黒潮の暖水波及が不安定と予測されるため、紀伊水道外域からのシラスの補給は一時的になる可能性が考えられる。ただし、4 月には紀伊水道全域にシラスが分布しており、同時期の暖水波及により春季シラス資源は大阪湾内の漁場にもすでに多数存在していることが推測される。

播磨灘東部(兵庫県側)では特異的に好漁であった昨年並の漁は望めないと考えられる。

播磨灘北西部(岡山県側)では前年の秋シラス漁が好漁であり、備讃瀬戸海域で春季に産卵がみられている。

小・中羽(本年春季発生群)

大阪湾では、本年春シラス漁で対象となった群れが成長し小・中羽となって漁の対象となる。本年春シラス漁の水準は 2002 年をやや上回ると予想される。